

2021年2月新着情報



ILC-Japan または ILC-GA メンバーが関わった／関わっている
イベント／取り組み

- **英国：日本のワクチン接種改善に向けた新たなプロジェクトを ILC-UK が開始(2/10)**
 - <https://ilcuk.org.uk/moving-the-needle/>
 - <https://ilcuk.org.uk/simon-roberts-introduces-moving-the-needle-improving-uptake-of-adult-vaccination-in-japan/> (紹介動画)
 - 山田メモ：以前 UK の David さんが、ワクチン云々で日本の通訳を探しているとおっしゃっていたのは、ひょっとしてこの件でしょうか？
 - コロナパンデミックによって、ワクチン接種に注目が集まっているが、日本では成人のワクチン接種に対する意識が低い。実際の接種状況を見ても、2019 年にはインフルエンザ流行にも関わらず、日本では 65 歳以上のワクチン接種が大幅に改善できていない。このような状況下、コロナパンデミックは日本での接種向上に向けて、新たな課題とともにチャンスももたらしている。ファイザー日本法人の助成金によって実施される今回の研究事業は、日本の高齢者(65 歳以上)のワクチン接種向上を目指す 2 種類の介入法を特定・開発・改善するために、ILC と Stripe Partners が質的調査法(エスノグラフィー)を用いて共同で行う。具体的な方法は以下の通り。
 - ◇ 日本および世界におけるヘルシーエイジングおよび予防接種関連政策に関するエビデンスを収集し、何が効果的か／効果的でないかについて理解する。
 - ◇ エスノグラフィックリサーチを実施し、接種へのバリアを理解するとともに、日本の文化に沿ってニーズやバリアに対応した適切な介入を共同でデザインする。
 - ◇ 上記介入を実施できる日本のパートナーと協働し、日本で予防接種の重要性について認知向上を図る。
- **【コロナ関連】オランダ：オランダのコロナ・プラットフォームに掲載されたストーリーが 300 人超え(1/1)**
 - <https://www.ilc-alliance.org/news/over-300-stories-published-on-dutch-corona-story-platform/>
 - オランダの Leyden Academy と Get Oud 財団が 2020 年 3 月下旬に立ち上げた [Wij & corona](#) (私たちとコロナ) プロジェクトでは 2020 年末、紹介されたストーリー数が 300 件に達した。このプラットフォームでは、コロナ禍におけるオランダ全国の高齢者の経験を共有しているほか、介護者のストーリーも掲載している。また HelpAge International と ILC Japan の協力により、国外の高齢者によるコロナ体験も紹介できている。立ち上げ当初は、パンデミックがここまで長引くとは予想していなかったが、コロナが人々の日常生活に影響を及ぼす限り、高齢者のストーリー収集および紹介を続けていく予定。
- **オランダ：50 歳以上の人たちの起業支援プログラム Silver Starters 第 2 弾開始(1/15)**
 - <https://www.ilc-alliance.org/news/silver-starters-helps-people-over-50-on-their-way-to-their-own-company/>

- <https://silverstarters.org/>
- Leyden Academy on Vitality and Ageing と Aegon は 2019 年、50 歳以上の人たちの起業支援を行う無料研修プログラム Silver Starters を実施し、成功を収めた。この成功を受けて、2021 年 1 月 14 日よりプログラム第 2 弾を開始し、50-74 歳の 100 名近くが参加している。12 週間にわたるこのプログラムで参加者たちは、オンライン研修とコーチングを通じて、自らのアイデアを起業に結びつける基礎を身につけていく。今回の参加者たちは、特に社会的起業や持続可能性への関心が高いため、プログラムでは非営利団体の設立について特に重点を置く予定。プログラム内容にはたとえば、起業への心構えやスキル、アイデアの実現可能性検討、顧客ニーズ、収益モデル、マーケティングなどが含まれる。Silver Starters は、イタリアやポーランド、ポルトガルでも実施されている。



海外での興味深い取り組み・ニュース

- **欧州：予防ケアが医療費に占める割合は 3% (1/18)**
 - https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/ddn-20210118-1?redirect=%2Feurostat%2Fweb%2Fmain%2Fnews%2Fwhats-new%3Fp_id%3Dcom_liferay_asset_publisher_web_portlet_AssetPublisherPortlet_INSTANCE_AJ2so9Q6Ai6F%26p_p_lifecycle%3D0%26p_p_state%3Dnormal%26p_p_mode%3Dview%26_com_liferay_asset_publisher_web_portlet_AssetPublisherPortlet_INSTANCE_AJ2so9Q6Ai6F_delta%3D20%26p_r_p_resetCur%3Dfalse%26_com_liferay_asset_publisher_web_portlet_AssetPublisherPortlet_INSTANCE_AJ2so9Q6Ai6F_cur%3D2
 - コロナ禍の中で予防ケアへの関心が高まっているが、2018 年の EU データを見ると、予防ケアが医療費全体に占める割合は平均して 2.8% だった。最も割合が高かったのはイタリア(4.4%)で、次がフィンランド(4.0%)だった。他方、最も低かったのはスロヴァキア(0.8%)で、ギリシャ、キプロスおよびマルタ(それぞれ 1.3%)が続いた。人口 1 人当たりの予防ケア支出が EU で高かったのは、スウェーデン(165 ユーロ)、フィンランド(152 ユーロ)、ドイツ(148 ユーロ)およびオランダ(146 ユーロ)であり、低かったのはルーマニアとスロヴァキア(それぞれ 8 ユーロ)だった。
- **【コロナ関連】欧州：2020 年の過剰死亡は特に春と秋で上昇 (1/20)**
 - https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/ddn-20210120-1?redirect=%2Feurostat%2Fweb%2Fmain%2Fnews%2Fwhats-new%3Fp_id%3Dcom_liferay_asset_publisher_web_portlet_AssetPublisherPortlet_INSTANCE_AJ2so9Q6Ai6F%26p_p_lifecycle%3D0%26p_p_state%3Dnormal%26p_p_mode%3Dview%26_com_liferay_asset_publisher_web_portlet_AssetPublisherPortlet_INSTANCE_AJ2so9Q6Ai6F_delta%3D20%26p_r_p_resetCur%3Dfalse%26_com_liferay_asset_publisher_web_portlet_AssetPublisherPortlet_INSTANCE_AJ2so9Q6Ai6F_cur%3D2
 - https://ec.europa.eu/eurostat/statistics-explained/index.php?title=Excess_mortality_-_statistics (詳細情報)
 - 2020 年 3 月に、欧州の数か国では COVID-19 による死亡者数が増え始め、平均死亡率より著しく高い国も出てきた。この頃から、超過死亡(あらゆる原因による死亡者数合計について、過去数年の平均値からの増加)を見ることでパンデミックの影響を評価する、という考えが出てきた。

EU 全体における 3-10 月の死亡者数は、2016-2019 年平均と比較して、2020 年は約 297,5000 人多かった。コロナ第 1 波がピークに達した 2020 年 4 月は EU での超過死亡率も最も高く、2016-2019 年平均より 25%上昇した。5-7 月にはいったん低くなったものの、8-9 月に上昇し、9 月の上昇率は 8%、10 月は 17%であった。超過死亡は年間を通じ、また欧州全体で見られたが、超過のピークや程度は国ごとに大きく異なっていた。

● **欧州：年金受給額の男女差は縮小しているか？(2/3)**

- <https://ec.europa.eu/eurostat/web/products-eurostat-news/-/ddn-20210203-1?redirect=%2Feurostat%2Fnews%2Fwhats-new>
- 2019 年、EU の高齢者(65 歳以上)の平均年金受給額は、女性の方が男性より 29%少なかった。しかし 2010 年では男女差が 34%あり、約 5 ポイント縮小している。男女差は国によって大きく異なり、特に男女差が大きかった(女性の受給額が少なかった)のは、ルクセンブルグ(44%の差)、マルタ、オランダ(ともに 40%)、キプロス(39%)、オーストリア(39%)、ドイツ(36%)だった。他方、男女差が小さかったのはエストニア(2%)、デンマーク(7%)、ハンガリー(10%)などだった。2010 年と 2019 年で男女差が著しく縮小したのは、ギリシャ(13 ポイント減)、デンマークおよびスロヴェニア(ともに 11 ポイント減)だった。しかし 6 か国では男女差が拡大しており、マルタでは 18 ポイント(22%→40%)男女差が広がっていた。また、2019 年における高齢者の貧困率を見ると 15.1%であり、2018 年の 14.5%より若干上昇しており、2014 年の 12.3%と比較しても上昇傾向が見られる。高齢者の貧困率は国ごとに大きく異なり、ラトビア、エストニア、ブルガリアおよびリトアニアでは 30%を超えていた一方で、ルクセンブルグ、スロヴァキア、フランス、デンマークおよびギリシャでは 10%以下だった。

● **【コロナ関連】英国：英雄「キャプテン・トム」がコロナで死去(2/2)**

- <https://www.bbc.com/news/uk-england-beds-bucks-herts-55881753>
- <https://www.bbc.com/japanese/video-55930294> (日本語記事)
- コロナ禍の中で、自らが歩行器を使って歩き医療従事者のために約 3,300 万ポンドの資金を集めた 100 歳のトム・ムーア大尉、通称「キャプテン・トム」が、2 月 2 日にコロナウイルス感染で死亡した。エリザベス女王は追悼メッセージを発表。またトム氏の功績を称えるため、イギリス各地で 3 日午後 6 時に一斉に拍手が送られ、ボリス・ジョンソン英首相や医療従事者、軍関係者らも参加した。

● **米国：米歌手トニー・ベネット氏がアルツハイマー病を公表(2/1)**

- <https://www.alzheimer-europe.org/News/Dementia-in-society/Monday-01-February-2021-Legendary-singer-Tony-Bennett-is-living-with-Alzheimer-s-dementia>
- <https://www.aarp.org/entertainment/celebrities/info-2021/tony-bennett-alzheimers.html>
- http://www.billboard-japan.com/d_news/detail/96617/2 (日本語記事)
- 94 歳の歌手トニー・ベネット氏が、アルツハイマー病の診断を受けていた。診断は 2016 年に行われていたが、このたび AARP Magazine で公表された。ベネット氏は 1940 年代よりグラミー賞を 19 回受賞しており、困難を抱えながら現在も音楽活動を続けている。レディー・ガガとの第 2 作目も完成したところで、この作品は今春発表予定。妻のスーザン氏(54 歳)が主介護者となっており、上記 AARP のホームページからは、スーザン氏のインタビューを含む動画も閲覧可能。

- オーストラリア:「漏れる」恐怖に政府のトイレアプリが救いの手(1/21)
 - <https://nationalseniors.com.au/news/latest-in-lifestyle/fear-of-leakage-toilet-maps-to-the-rescue>
 - 外出時のトイレ問題は誰にとっても切実な問題だが、高齢者にとってはその重要性がさらに高いだろう。スマートフォンでダウンロード可能なアプリとして、トイレマップが各国で見られるが、オーストラリアでは政府（保健高齢省）がトイレマップアプリ The National Public Toilet Map (<https://toiletmap.gov.au/>)を運営し、全国 1.9 万か所の公共トイレを紹介している。紹介ページには、たとえばユニバーサルトイレの有無、営業時間、シャワー・おむつ交換・鋭利廃棄物処理施設有無などの情報が含まれる。このアプリは Google Play または App store よりダウンロード可能。



海外／国際機関で最近発表された法律・規則・提言など

- **【コロナ関連】**英国:社会的ケア部門へ計 2 億 6,900 万ポンドの支援:スタッフの確保および検査に向けて(1/19)
 - <https://www.gov.uk/government/news/social-care-to-receive-269-million-to-boost-staff-levels-and-testing>
 - 英国全体でコロナの変種株が影響を及ぼす中、施設および在宅のケアスタッフ不足が深刻化している。これは職員のコロナ検査陽性結果や自己隔離によるものである。英国政府は 2020 年 12 月に、1 億 4,900 万ポンドの助成金をケアホームに提供すると発表した。1 月 19 日の発表では、追加でさらに 1 億 2,000 万ポンドの支援を行う事とした。今回の財源は、ケアホームと在宅ケア事業者の両方が対象となり、人材不足時の追加ケアスタッフ提供や事務作業の援助(ケアスタッフがケアに専念できるように)、既存スタッフが希望した場合の残業支援(残業代、保育費補助)で地方自治体が活用できる。
- **【コロナ関連】**英国:成人向け社会的ケアの仕事に関する大規模な募集キャンペーン(2/9)
 - <https://www.gov.uk/government/news/public-urged-to-consider-work-in-adult-social-care>
 - 英国全体でコロナ変異株の感染が拡大する中、成人向け社会的ケアではスタッフの自己隔離等によって職員確保の問題が深刻化しており、新たな人材が求められている。そこで政府は、長期と短期の両方で様々な人々へ、施設および在宅ケアの仕事に関心のある人たちを募集している。求職中の人、ボランティア、一時休暇中の人などには[短期の募集サイト\(※\)](#)が立ち上げられ、このページから登録できる。業務内容は、身体介護からウェルビーイングの支援、物品の配達、調理や清掃など多岐にわたり、個人の経験や地域・事業所の状況によって決められる。登録内容は政府から自治体および事業者へ送られ、事業者から応募者へ直接連絡する仕組みとなっている。その後、研修やワクチン接種(エッセンシャルワーカーとなるため優先的に接種)について詳細情報が提供される。また「Care for Others. Make a Difference(ケアをしよう、社会を変えよう)」と題したキャンペーンも始まり、長期的なキャリアとしてのケアの仕事について認知向上を行う、テレビやデジタル媒体での広告を行っている。長期的なケアの仕事については、[別個のウェブサイト\(※\)](#)も設けている。

(※)短期の募集サイト

<https://www.gov.uk/guidance/short-term-paid-work-in-adult-social-care>

(※)個別のウェブサイト

<https://www.everydayisdifferent.com/home.aspx>

● **イタリア: 全国認知症計画に初の財源割り当て(1/5)**

- <https://www.alzint.org/news/italian-national-dementia-plan-to-receive-funding-for-first-time/>
- <https://www.alzheimer-europe.org/News/Policy-watch/Monday-25-January-2021-Italy-finally-gets-funding-for-its-National-Dementia-Plan>
- 2020 年末、イタリアの国会は 2021 年の予算法を改定し、同国で初めて全国認知症計画に対し、3 年間で 1,500 万ユーロの財源割り当てを承認した。これは、イタリアのアルツハイマー協会が何年にもわたり働きかけた成果ともいえる。計画自体は 2014 年に承認され、イタリアは世界に先駆けて全国認知症計画を掲げた国となったが、財源がない状態での計画では不十分であることも示されていた。認知症に対する社会的なスティグマへの対応や活動のコーディネーションなどの目的を掲げた同計画は、財源配分が承認されたことによって、ついに具体的な活動へつなげられた。金額は少ないものの、認知症の人やその家族にとっては希望のシンボルとなった。



海外／国際機関で最近発表された／近日発表される
報告書・ガイドブックなど

● **【コロナ関連】世界 11 か国(日本含む): Elder Care Providers & COVID-19: Cross-Cultural Perspectives(高齢者ケア提供者と COVID-19: 多様な文化の視点) (2/3)**

- <https://globalageing.org/gan-covid-report/>
- <https://globalageing.org/wp-content/uploads/2021/02/Global-Ageing-Network-COVID-19-Research-Report.pdf> (全文)
- The Global Ageing Network が発表した「Elder Care Providers & COVID-19: Cross-Cultural Perspectives」では、日本を含む世界 11 か国の高齢者ケア提供者や専門家等とリモートでのインタビューやメールでの調査(2020 年 9-11 月)を行い、コロナパンデミックにおける事業者や政府の対応、画期的な対策についてまとめている。調査の結果は、「緊急時および感染対策の計画」、「感染直後の対応(人材問題、訪問時のプロトコル、検査、保健当局とのコミュニケーション、物理的環境)」および「コロナ関連の政策・ガイドライン」に整理されている。巻末には、インタビューガイドも掲載。
- 山田メモ: 以前お会いした清田さんが主任研究員のようです。

● **欧州: Green Paper on Ageing: Fostering solidarity and responsibility between generations(高齢化に関する緑書: 世代間での連帯および責任の促進) (1/27、欧州委員会提案書)**

- https://ec.europa.eu/commission/presscorner/detail/en/ip_21_191
- <https://www.alzheimer-europe.org/News/EU-developments/Thursday-28-January-2021-European-Commissioner-publishes-Green-Paper-on-Ageing>

- https://ec.europa.eu/info/sites/info/files/1_en_act_part1_v8_0.pdf (全文)
- 欧州委員会は、高齢化に関する緑書(政策提案書)を発表し、欧州の高齢化社会における課題とチャンスに関する政策的議論が始まった。この提案書では、EUの人口構造変化がもたらす社会経済的な影響についてまとめているほか、様々な政策分野で必要とされる対策(例:健康的なライフスタイルの推進、生涯学習、医療やケアシステムの強化など)も特定している。委員会では12週にわたり、この提案書に対する関係者からの意見を募集しており、たとえば ILC-UK ではホームページ上で、提案書について前向きなコメント(※)を掲載している。集められた意見を受けて委員会では、高齢化関連問題に関する加盟国・地域での取り組み強化に向けた政策を検討していく。

(※)コメントのサイト

<https://ilcuk.org.uk/ilc-welcomes-european-commission-green-paper-on-ageing/>

- **アジア太平洋地域: Addressing Population Ageing in Asia and the Pacific Region: A Life-Cycle Approach (アジア太平洋地域の人口高齢化対応: ライフサイクル・アプローチ) (1/28、国連人口基金報告書)**

- <https://asiapacific.unfpa.org/en/publications/addressing-population-ageing-asia-and-pacific-region-life-cycle-approach>
- https://asiapacific.unfpa.org/sites/default/files/pub-pdf/201209_unfpa_a_life_cycle_approach_layout_v2-1.pdf (全文)
- アジア太平洋地域で高齢化が急速に進んでいる所がある一方で、その多くは準備ができていない状態である。経済成長と高齢者の権利やニーズの保護を両立させる政策の展開が重要だが、地域での人口高齢化問題のすべてに対応できる総合的な政策があるわけではない。したがって現実的にできるのは、既存の政策から学びそれを改善することである。この報告書では、人口高齢化や少子化に関する政策や問題について検討するとともに、国連人口基金(UNFPA)がとれる対策についても提案している。

- **英国: Shut out: How employers and recruiters are overlooking the talents of over 50s workers (締め出し: 50歳以上の人財を雇用者や採用担当者はいかに見過ごしているか) (1/12、Centre for Ageing Better 報告書)**

- <https://www.ageing-better.org.uk/news/employers-failing-tackle-age-bias-recruitment-according-new-report>
- <https://www.ageing-better.org.uk/sites/default/files/2021-01/Shut-out-how-employers-and-recruiters-overlooking-talents-older-workers.pdf> (全文)
- Centre for Ageing Better と Institute for Employment Studies が行ったこの調査では、既存のエビデンスのほか雇用者や採用担当者からの意見をまとめ、高齢就労者にとって不利な雇用アプローチやその対策を紹介している。調査では主に、以下の点が浮かび上がった。
 - ◇ 雇用者たちは、自らが高齢求職者に対して様々な否定的な思いを持っているというエビデンスがあるにもかかわらず、年齢に関する自組織での多様性について「問題なし」とらえている。
 - ◇ 採用での多様性や包摂性改善について考える際、そこに年齢を含める雇用者はほとんどいない。

- ◇ 組織との「相性」などあいまいな基準は、高齢就労者にとって不利となりうる。
- ◇ 採用時の年齢について雇用者が考える際、その大半は「若者の採用」という観点からだった。
- ◇ 多くの雇用者たちは、多様性や包摂性が重要だと述べているものの、より多様で包摂的な採用に向けた組織的な対策をとっている所はほとんどなく、特に年齢では殆ど見られない。対応策の案では、たとえば求人広告の内容見直しや、求職・採用プロセスの改善、既存職員の年齢構成分析などが挙げられている。

● **【コロナ関連】英国: Coronavirus: Impact on the labour market(コロナウイルス:労働市場への影響)**
(2/3、下院図書館報告書)

- <https://commonslibrary.parliament.uk/research-briefings/cbp-8898/> (左記より全文ダウンロード可能)
- この報告書では2020年9-11月の労働市場統計をまとめており、更なる失業の増加が示された。失業率は2016年以降初めて5%を超えたほか、四半期での解雇数も記録を更新した。しかし、パンデミックが労働市場に及ぼす影響は落ち着き始めているという兆候も見えており、求人や労働時間が増加しつつある。ただしコロナウイルス雇用維持スキームが年末に終了するため、失業率の継続的な増加が見込まれる。これまでのところコロナウイルスによる労働市場への影響は、特定の年齢層で特に大きい。パンミック発生以降、16-24歳と65歳以上の雇用は30.3万(6%)減少した。一方で25-64歳では、減少が19.9万(0.7%)にとどまっている。状況は刻々と変わっているため、今後もデータを随時更新予定。

● **英国: Integration and Innovation: working together to improve health and social care for all(統合とイノベーション: 全ての人への医療と社会的ケア改善に向けた協働)** (2/11、政府白書)

- https://www.gov.uk/government/publications/working-together-to-improve-health-and-social-care-for-all?wp-linkindex=3&utm_campaign=Health_and_Care_Bill_launch_of_new_White_Paper&utm_content=dhsc-mail.co.uk&utm_medium=email&utm_source=Department_of_Health_and_Social_Care
- <https://www.gov.uk/government/news/blueprint-launched-for-nhs-and-social-care-reform-following-pandemic>
- https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/960549/integration-and-innovation-working-together-to-improve-health-and-social-care-for-all-print-version.pdf (全文)
- コロナパンデミック後の医療とケアの改革に向けた政府の白書が発表された。主な改定案は以下の通り。
 - ◇ 統合ケアを標準モデルとする。
 - ◇ 不要な法的官僚制を提言する。
 - ◇ 説明責任を改善する。
 - ◇ 健康格差に対応する。
 - ◇ 社会的ケア、公衆衛生およびNHSへの支援を改善する。
 NHSの長期計画案に基づいたこれらの改革案は国会に提出され、法制化に向けて審議予定。

- **【コロナ関連】米国: Older Adults' Mental Health Shows Some Sign of Resilience Amid the Ongoing Pandemic (パンデミックが続く中でもレジリエンスを示す高齢者のメンタルヘルス) (1/16)**
 - <https://apnews.com/article/pandemics-health-coronavirus-pandemic-f17c37a878b7bb92f4cc01bc7f8a65b5>
 - https://www.norc.org/PDFs/NSHAP/NSHAP%20COVID%20AP%20Report_Jan2021_FINAL.pdf
(全文)
 - シカゴ大学の研究所 NORC による全国社会生活・健康・加齢プロジェクト(NSHAP)の延長で行なわれた NSHAP-COVID 調査では、2020 年秋に NSHAP パネル対象者へ調査を行った。その予備結果としてこの報告書では、地域在住の 55-99 歳 1,284 人に行ったインタビュー(9 月 14 日-10 月 25 日)の結果をまとめ、同じ回答者による 2015-2016 年の結果と比較した。全体的な精神的健康や孤独感の指標では、2015-2016 年と比較して悪化しておらず、パンデミックの中でもレジリエンスが見て取れた。しかし全体的な幸福感については、「とても」または「極めて」幸せと回答した人の割合が半減していた。他の主な結果は以下の通り。
 - ◇ パンデミック中、回答者の約 1/5 が外に住む家族(19%)や友人(21%)と対面でのやりとりを全く行っていなかった。
 - ◇ 外に住む人たちとビデオ通話を行う頻度が増えたのは、家族とでは 27%、友人とでは 20%だった。

- **オーストラリア: ウェルネスとリエイブルメントに関する資料コレクション(1/22)**
 - <https://www.health.gov.au/resources/collections/wellness-and-reablement-resources>
 - 政府による上記ページからは、ウェルネスとリエイブルメントを重視したサービス提供に関する様々な実践ガイドやツールをダウンロードできる。
 - 実践ガイド
 - ◇ Practical guide for embedding wellness and reablement into service delivery (ウェルネスとリエイブルメントをサービス提供に組み込む実践ガイド)
 - ◇ Care planning checklist (ケア計画チェックリスト)
 - ◇ Conversational tips (対話のヒント)
 - ◇ Identifying opportunities for reablement (リエイブルメントのチャンスを見つける)
 - ◇ More good days wellness wheel (良い日をもっとたくさん: ウェルネスの輪)
 - ◇ Principles of wellness and reablement (ウェルネスとリエイブルメントの原則)
 - ◇ Principles for goal setting (目標設定に向けた原則)
 - ◇ Service delivery reflection template (サービス提供の振り返り: ひな形)
 - ツール(準備、実施、評価など)
 - ◇ Toolkit for embedding wellness and reablement into your organisation (組織内でウェルネスやリエイブルメントを組み込むためのツールキット)
 - ◇ Change management plan step-by-step guide (マネジメント計画の変更: ステップバイステップガイド)
 - ◇ Continuous improvement template (継続的な改善: ひな形)
 - ◇ Organisational culture checklist (組織文化チェックリスト)
 - ◇ Organisational self-assessment tool (組織の自己評価ツール)
 - ◇ Standard operating procedure template (標準作業手順: ひな形)

- オーストラリア: Review of Assistive Technology Programs in Australia Final Report(オーストラリアにおけるアシスティブテクノロジープログラムの精査:最終報告)(2/10)
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/review-of-assistive-technology-programs-in-australia-final-report>
 - <https://www.ahaconsulting.com.au/projects/assistive-technology-review/>
 - https://www.health.gov.au/sites/default/files/documents/2021/02/review-of-assistive-technology-programs-in-australia-final-report_0.pdf (全文)
 - <https://www.health.gov.au/resources/publications/review-of-assistive-technology-programs-in-australia-supplementary-technical-report> (補足資料)
 - アシスティブテクノロジー(AT)は、高齢者が自宅で安全に住み続けるのを効果的に支援できるが、多くの人たちは必要なATを利用できていないのが現状である。そこでオーストラリア政府はオーストラリアヘルスケア協会(AHA)に対し、同国のATプログラムの精査および高齢者のATアクセス改善策特定を依頼した。その最終報告がここに紹介する資料である。ATは、人々の機能や自立を維持・改善する商品やサービスの総称であり、車いす、義肢、杖、補聴器、特殊なコンピューターソフトウェアなど多岐にわたる。AHAではこれまでの連邦および州政府による取り組みを基に、以下を行った。
 - ◇ ATのメリットに関する検討
 - ◇ 在宅・施設ケアでのコスト削減でATが及ぼす影響
 - ◇ どのATを政府が補助し、何を利用者の自己負担とすべきか、レンタル市場はどのようにアクセス改善へ貢献できるかの検討
 - ◇ 同国の既存ATプログラムの要約
 - ◇ 高齢者のATアクセス改善方法の特定